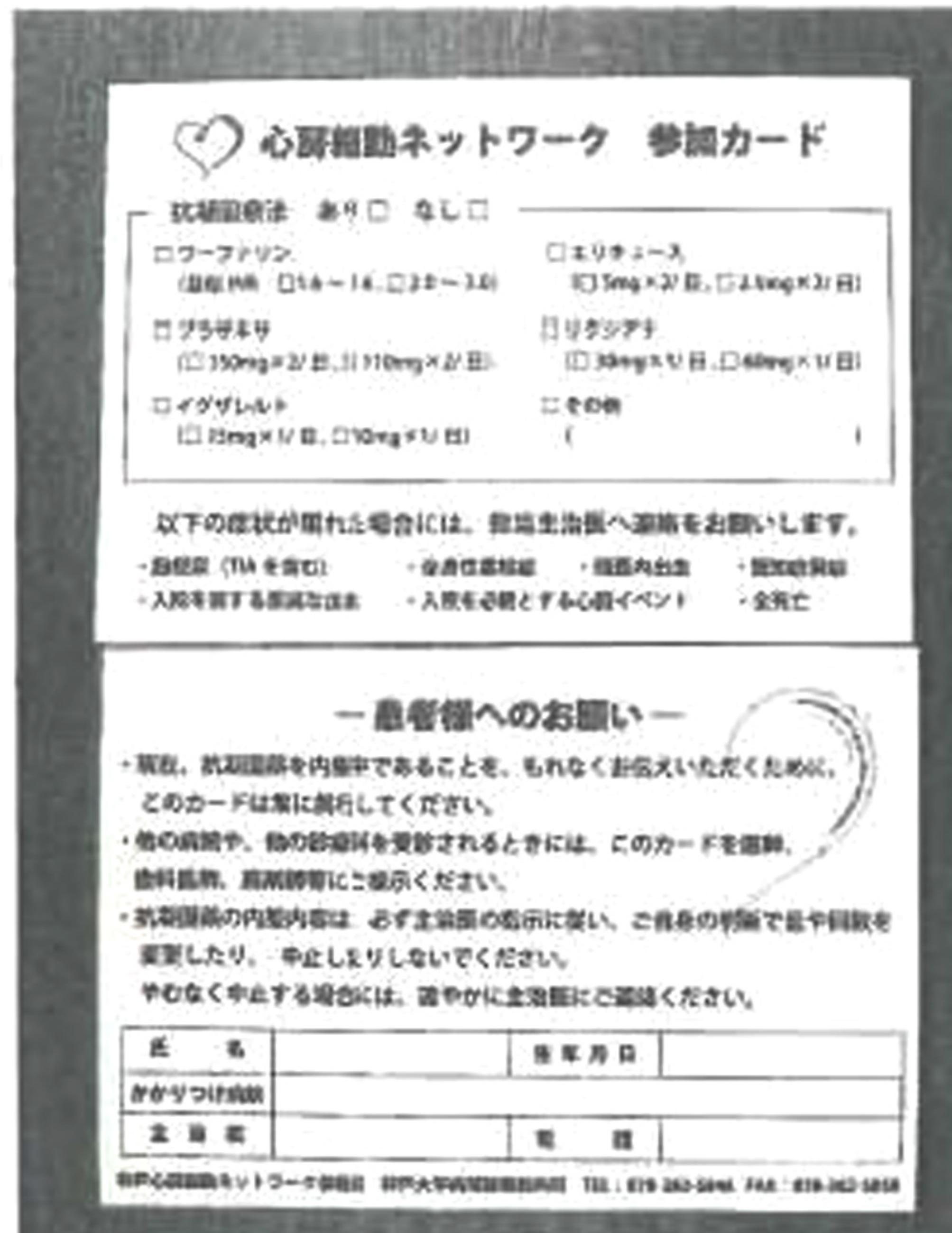


心房細動からのお灸梗塞防げ



「血栓」が脳に運ばれ、血管が詰まつて脳梗塞が起きる。このタイプは、脳梗塞の原因の3分の1近くを占めるときれる。心臓で生じる血栓は比較的大きいため死亡率が高く、寝たきりなど重症化もしやすいという。

心房細動は不整脈の一種。心臓の上方を占める心房の一部が線維のようになり、異常な電気が生じて不規則に興奮する。動悸や息切れなどの症状が出る人もいる。

脳梗塞の原因の約3割を占めるとされる心臓病「心房細動」の患者に、服薬状況などを書き込んだカードを携帯してもらい、脳梗塞発症時に搬送された救急病院が適切に対応できるようにする取り組みが、兵庫県内で進んでいる。発症前のかかりつけ医と病院が情報を共有し、退院後も十分な支援ができる体制づくりを目指す。関係者は「カードの携帯で心房細動が脳梗塞の主な原因だと知つてもらい、発症防止につなげたい」とする。(金井恒幸)

県内の医療機関がネットワーク

患者カード携帯、情報共有 救急搬送先での対応スムーズに

救急搬送先での対応スムーズに

神戸大医学部付属病院（神戸市中央区）、北播磨総合医療センター（小野市）、竹内内科（神戸市灘区）、加古川東市民病院（加古川市）、明石医療センター（明石市）、神戸市立医療センター中央市民病院（神戸市中央区）、神戸中央病院（同市北区）、加古川西市民病院（加古川市）、神戸百年記念病院（神戸市兵庫区）、神戸赤十字病院（同市中央区）、いちかわ内科循環器科（加古川市）、おだけ内科循環器科（同）、矢野内科医院（高砂市）、奥窪医院（加古川市）、くどう内科クリニック（同）、島内科クリニック（同）、つむら循環器内科クリニック（同）、たすみ病院（同）、はりま病院（播磨町）、大山病院（西脇市）、おかだクリニック（神戸市須磨区）、井上医院（加東市）、玉田内科（加古川市）

名付けた。診療所代表として竹内内科（神戸市灘区）の竹内内科院長（64）も参加し、昨年1月に活動を本格的に始めた。年末時点では23の医療機関が参加してカードを配布し、約700人の患者が登録された。目標は1600人という。カードには、血栓防止のため血を固まりにくくする「抗凝固薬」を服用しているかどうかや、薬名、かかりつけの医療機関名、主治医名などを記入。他の病院や歯科医院などでも受診する際にカードを提示すれば、出血を伴う治療が必要な場合の判断材料として役立つ。また、脳梗塞などで搬送された病院に主治医への連絡を要請し、情報共有を目指す。

竹内内科では200人以上にカードを配布。患者からは

「財布に入れてカードを携帯している。かかりつけ医の情報が病院側に伝わるので、安心できる」などと好評という。登録した患者は5年間、ネットワークが経過をフォローする。吉田部長は「どんな心房細動患者が脳梗塞を発症しやすいなどを調べ、発症防止に役立てたい」と話す。

心房細動による脳梗塞を予防する取り組みでは、日本卒中協会によるプロジェクトなどもある。

かわいだ

A black and white portrait of Dr. Hiroshi Yoshida. He is a middle-aged man with dark hair, wearing glasses and a mustache. He is dressed in a dark suit jacket over a white shirt and a dark tie. He is seated in a chair, looking directly at the camera with a slight smile. The background shows a bright room with large windows that look out onto a lush green forest.